

平成31年度 第1回 四條畷高等学校 学校運営協議会 記録

日時	令和元年7月11日(木) 15時30分～16時30分
場所	本校大会議室(東館2階)
出席者	委員: 田中保和(会長)、梅田和子(副会長)、阪口葉子、串田ゆか、正田洋子 事務局: 松本校長、森教頭、竹島事務長、中角首席、野坂首席、辻本教諭(SSH)、新井教諭(GL)、瀧瀬(記録)
次第	1. 校長挨拶 2. 協議会委員自己紹介 3. 事務局等紹介 4. 協議会会長選出 5. 報告 6. 協議 7. その他
議題	◎ 本年度の学校経営計画に関する事項等
協議要旨	1. 「平成31年度 学校経営方針」について(校長) ・「平成31年度の取組重点」について ・「平成31年度 取組の推進」について ・「今年度推進させる取組の具体例」について 課題研究(探究活動)のさらなる発展に注力 国公立大学の特色入試進学に向けて日々の取組みの充実と外部発表への参加 聴覚障がいの生徒への支援体制の確立及び職員研修の開催 多忙な生徒への支援体制の確立
	2. 「進路状況等」について(首席から報告) 71期卒業生は、志高く、2次試験で挽回し目標を達成した。 現役合格志向(浪人数の減少 一昨年度日20人減少) 高校時代の課題研究の実績を活用
	3. GL部の取組について(教諭から報告) 3年目を迎えて ・今年度の新たな取組 シンガポール研修で英語による発表 各種行事の申し込みをメールで行う 英語によるプロモーションビデオ作製 ・昨年度からの変化 教職員を含め、活動に対する意識向上 上級学年からの研究テーマ引継ぎの増加 四條畷市との連携強化 卒業生によるアシストの充実(学生TAの活用)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題 教員の介入度合いの難しさ。自主性の重視。 行事が多く、関心のばらつきがある。 ファイリング指導の難しさ。助言がほしい。</li> </ul>
	<p>4. SSH への取組について〈教諭から報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み概要 研究領域に専門性のある教員を割振ったことにより充実した研究環境 探究ラボの指導体制の充実（各グループ顧問2名制・部活動のような立ち位置に）</li> <li>・新規事業 学生TA SSHブログ 高大連携 先進校視察</li> <li>・課題 理科教員の負担軽減 アウトプット活動に対する意識 SSH費の運用の見える化 SSH活動全般に対する評価方法の曖昧さ</li> </ul>
	<p>【委員からの意見・質問】（→の後は回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〔副会長〕ファイリングし終えたものの管理状況は？ →〔教諭〕研究資料は専用ノートファイルに綴じている。管理率はかなり低い。</li> <li>・〔委員〕卒業生による学生TAは良い。</li> <li>・〔委員〕手で書くのは難しいので、音声入力などはどうか？電子的にしておくのと医療現場では役に立っているが。 探究ラボとは何か？参加人数や部活動との兼ね合いは？ →〔教諭〕探究ラボは、卓越した資質・能力の育成を目的に立ち上げた探究活動を行うメンバーで、1～3年生で30人前後が所属。週1回の活動でほとんどの生徒が兼部。</li> <li>・〔委員〕指定校推薦の大学を生徒は把握しているか？ →〔首席〕把握できるように取り組んでいる。</li> <li>・〔委員〕課題研究の発表会をこれまでも何度か見たが、よく取り組んでいて素晴らしい。特色入試や面接に強いと思う。文理学科のみになって統一されたことは？ →〔校長〕文理学科だけになり、課題研究のテーマや評価を統一できるようになった。また、オール文理になったことによる変化を今後先生方の協力を得て調査したい。 〔教諭〕全クラスで同じ探究チャレンジの授業ができるようになった。</li> <li>・〔会長〕予算はどのように措置していくのか？ →〔校長〕全員にチャンスが与えられ、援助ができるように、同窓会や外部機関に働きかけていきたい。 〔教諭〕食費の援助は出ないので、生徒負担をできるだけ少なくなるように工夫している。 成果を上げることでJSTからの補助は出る。立案内容が重要視されている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〔会長〕 新規の行事は？</li> <li>→ 〔教諭〕 Science Immersion Program。科学実験を English only で学習。</li> <li>・〔会長〕 非常に多くの行事を抱えているが、働き方改革的には大丈夫か？</li> <li>→ 〔校長〕 少しずつ軽減はしている。土曜講座、自習室、部活動の指導など、生徒のニーズを考えると取組みを続けたい。</li> <li>・〔副会長〕 課題研究の評価方法が課題である。どのような形にしているか？</li> <li>→ 〔教諭〕 必要な資質から、授業方針を決めており、そこからの成果で評価している。成果が確かな結果として出てくる生徒は問題がないがそうではない場合が課題。SSHアンケートを実施して、自らの変化や生長点をスパイラルの節目で評価している。アンケートの中身にまだ自信がないが。</li> <li>・〔副会長〕 ルーブリックを与えて評価させるとよいという事例はあるが。</li> <li>・〔委員〕 ボランティア活動などをしていて、他の発表にインスパイアされると思うので、どんどん取り組んでほしい。</li> <li>・〔委員〕 補助員がいるといいですね。</li> </ul>
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「平成31年度学校経営計画および学校評価」</li> <li>(2) 「2019年度本校生の進路状況」</li> <li>(3) 「過去3年間の推薦入学試験結果」</li> <li>(4) 「2013～2019年度入試 過去7年間の本校の合格状況」</li> <li>(5) 「探究チャレンジ・課題研究の授業計画」</li> <li>(6) 「自己PR用紙」</li> <li>(7) 「SSH活動状況及び今年度の活動計画」</li> </ul>